

令和5年度志木市立宗岡小学校 第5回 学校運営協議会議事録

1 開催日時 令和6年3月1日（金） 14：10～15：10

2 場 所 志木市立宗岡小学校 多目的室

3 出席者

学校運営協議会委員 津田 美奈	学校運営協議会委員 大熊 克範	学校運営協議会委員 内田 義明	学校運営協議会委員 (欠) 石井 英男
学校運営協議会委員 新井 京子	学校運営協議会委員 (欠) 田中 直広	学校運営協議会委員 細田 大二郎	学校運営協議会委員 若杉 一輝
学校運営協議会委員 (欠) 坂田 章法	志木市立宗岡小学校長 小木曾 久美子	—	—

【全体司会 教頭・協議司会 委員長・記録 教頭】 (計8名) ※ 事務局含む

4 協議内容

(1) 令和6年度 学校経営方針（案）について

- ・ 学校教育目標の具体化、目指す学校像、目指す児童像、目指す教師像について大きく改定した。
- ・ 地域の実態をさらに考慮するとともに、児童の意欲や姿勢を大きくクローズアップする表現にした。
- ・ 「折衝力のある教師」の育成を目指していく。小中一貫教育には引き続き重点を置いて取り組む。

【質疑応答】

『地域について』

○家庭の協力が求められる点については、PTAからも周知して力になりたい。

○地域との連携について多く記載があるが、具体的な案について知りたい。

→むねおか学での地域の教材化、地域の安全を見守ることなどを目指す。

○目指す児童像の中に「地域」という言葉がなくなった。

→目指す学校像に同様の記載があるため、あえて重複を避けた。

○地域という言葉について、どの世代にアピールするかで取組が異なってくるのではないか。

○通学班や通学経路における責任、学校と家庭の役割について知りたい。

→基本的には保護者が中心になってほしい内容である。学校や教師の果たす役割としては、登下校の際の安全指導・危険個所の確認、警察や保護者との連携などがある。ただし、学校と家庭の関わり方は地域によって異なる。

(2) 小中一貫教育について

- ・ 表向き形になった取組とともに、家庭や地域からは見えていない月例の宗岡第二中学校区3校の管理職によるワーキンググループ会議等がある。諸般の取組については市や学校のホームページでも紹介されているので見ていただきたい。

【質疑応答】

- 新聞やインターネットニュースでも志木市の中小一貫教育が話題になっているが、地域の実態としては合っている。
- 教職員の長時間勤務を考えると、部活動などは地域で後ろ支えしなければならない。ボランティアなどを募集していくことで支援できるのではないか。
- 囃子や祭りなど地域の伝統文化について、むねおか学等へのサポートができる。
→地域の支援を取り込んでいく計画である。
- 学校の働き方改革が強く求められる中で、中小一貫教育の取組により教職員の負担は確実に増えており、矛盾を感じる。市としてのベースが十分に示されず、学校任せになっていることが原因ではないか。市の指導主事が全面的に関わるべきではないか。

(3) 学校関係者評価について

【質疑応答】

- 挨拶は相手の人間性を知る意味もある。学校でも挨拶の意義を伝えてほしい。
→家庭でも挨拶の良さを伝える。家庭での親の姿が模範になる。
- 挨拶は「おはよう」だけではない。相手へかける言葉かけのすべてが挨拶につながる。家庭の力は重要である。
- 現校長の下で、学校全体で挨拶ができるようになってきた。

(4) 150周年記念式典等について（周年行事実行委員会委員長）

- ・午前の部を音楽祭、午後の部を体験ブース等で企画しているところである。
- ・①地域の歴史と伝統（神輿、囃子、狐童、祭り等）②食文化（うどん打ち、野菜づくり、マルシェ）など絞り込んでいるところである。
- ・記念誌等の冊子はPTA広報と絡めて作成する予定である。

5 諸連絡

6 閉会